

2002～2003年照明探偵団倶楽部新規会員募集・継続手続き

7月から照明探偵団倶楽部の新年度になります。これまで会員だった人は迷わず更新。会費の先取り支払いも歓迎です。

また皆さんの周りの興味を持ちそうな方々にも会員募集を宣伝してください。少しずつ、会員の輪を広げていきましょう。

さて、照明探偵団は現在、強力なインターネットのホームページを立ち上げようとしています。従来のホームページも（良く読むと）内容の深い記事がいっぱいあるのですが、海外への発信も含めてもっとアクティブな情報交換のシステムにしていきます。皆さんからも、どんなホームページであって欲しいか、ご意見をいただけたらと思います。

今年の探偵団倶楽部は「街歩き」と「探偵団サロン」と「探偵団通信」とを相互に連動しながらやっていくつもりです。これまでは、ややもすると毎回初心者向けの教育的街歩きになってしまいがちでしたが、これからは毎回、街歩きのためのテーマと仮説をはっきりしていきます。そしてその成果をサロンに活かし、通信にも連動していくつもりです。

徐々に新しい発見のための探偵団倶楽部にしよう、というものです。毎回の街歩きやサロンのご案内を見逃さないようにしてくださいね。

照明探偵団倶楽部の概要

1. サロンの研究会を定期的開催する。
2. 街歩き照明調査などの探偵活動を随時行う。
3. 機関誌「照明探偵団通信」を発刊する。

■入会

入会資格 特になし

入会金 無料

年会費 1000円 2003年6月まで（振込み手数料別）

■入会・継続手続き方法

1. 下記口座に年会費を振り込む。
「あさひ銀行青山支店 普通預金 1075901 照明探偵団団長 面出薫」
2. 入会申込書に必要事項を記入する。 ※継続の方で登録内容の変更がない方は「継続」に○を付け、名前のみ記入し、「年会費振込み済み」とコメント欄に明記して下さい。
3. 入会申込書、振り込み金受領書のコピーを事務局へ送る（FAXまたは郵送）
4. 以上で、入会・継続手続きは終了です。諸活動について随時ご連絡いたします

ご不明な点は事務局（tanteidan@ppp.bekkoame.ne.jp tel:03-5469-1022 fax:03-5469-1023）までお問い合わせください。

照明探偵団倶楽部入会申込書

私は照明探偵団の活動主旨に賛同し、
照明探偵団倶楽部に入会を申し込みます。

新規・継続
(どちらかに○を付けて下さい)

申込日 年 月 日

連絡先	ふりがな 名前			
	住所 〒			
	TEL/FAX	TEL:	FAX:	
	e-mail			
勤務先/学校	勤務先名 学校/学部名			
	住所 〒			
	TEL/FAX	TEL:	FAX:	
	性別 男 ・ 女	生年月日	T. S. H.	年 月 日
お知らせ方法(希望に○)		郵送	FAX	e-mail
コメント欄				



事務局へ
FAX 03-5469-1023

探偵団通信の送付先、諸連絡を行う先を連絡先欄にご記入ください
※銀行発行の振込金受領書のコピーも送付してください

“ Eyes in TOKYO ” 第 1 回

外国人のみるショッピングエリア in トーキョー 【表参道】

今年度の特集として” Eyes in TOKYO ” を連載します。

今年は海外レポートが充実するなかで逆に「外国人の見る東京」をレポートしていただき、私たちの身近な東京という街を再発見しましょう。第一回は現在東京に留学中の Peggy Tan さん (Singapore) にショッピングストリート、表参道をレポートしてもらいました。

東京を初めて訪れる外国人にとって、ショッピングという街での体験は、刺激的であり、また同時に戸惑う場でもあります。

銀座、新宿、渋谷…。これらのショッピングエリアは、それぞれ独自の特徴と全く異なった背景を持ち、異なる年齢層や需要に応じています。しかしシンガポールのオーチャード通りでショッピングに慣れ親しんできた者にとっては、おそらく表参道が最もほっとするショッピングエリアであり、親しみ深い雰囲気を感じるでしょう。

表参道とオーチャード通りには、全体の表情にいくつかの類似点があります。共にゆったりとした広い通りで、樹木が立ち並び、ぶらぶら歩くのに最適です。

カラフルで動的な広告サインが頭上を支配する銀座や新宿と違い、表参道とオーチャード通りの光環境は、ディスプレイライティングや店舗から漏れる光で構成され、それらはストリートレベルから建物の3～5階レベルのヴォリュームに集約しています。

しかしながら表参道にはオーチャード通りとの違いもあり、やはり新鮮な印象も受けま

す。

明らかな違いのひとつは道路照明の色温度の違いでしょう。

オーチャード通りやシンガポールの大部分では、低圧ナトリウムランプが一般的に使われていて周囲はオレンジ色に染まります。一方、表参道の道路・歩道照明は水銀灯や蛍光灯の高い色温度によって構成されています。

また、オーチャード通りでは、ショップディスプレイはビルディングファサードの一部であることが多く、それは奥行きを浅いウィンドウディスプレイとして構成され、店舗スペース奥への視線は遮られます。結果的に二次的な効果・見え方となります。

また、店舗は大きなビルディングの一部としてストリートレベルに軒を並べているので、それらは同質なものの連続であることに気がきます。

それに比べて表参道では、店舗は様々な高さの、それぞれ独立したビルディングです。

したがって店舗をそれぞれ三次元オブジェクトとしてライトアップしたり、たくさんのビルディングを都市行灯にしたりするいい機会に恵まれていると言えるでしょう。

そのいい例として、Max & Co. プティックはそのキューブ型と四角い光パネルが特徴的です。その他、各階のテナントが異なったタイプのライティングを行っているビルディングでは、ガラスファサードを通して色々なレイヤーが見られ、興味深いものでした。

いくつかのビルディングでは、ライティングをエンターテイメントや、純粋にその光の効果として用い、目立ったものがありました。

La Foret は表面をファイバーがつたい、道路交差点に面してカラーチェンジングなどのオペレーションがされています。キディランドは不思議なミドリ色の間接照明で演出された開口がファサードを作っています。最近出来たという V28 というビルディングは青色の LED ディスプレイが夜間はファサードを演出し、それらはプログラミングされ、決まった時間に変化します。

しかし私たちにとって表参道を歩いていてもっとも楽しいのは、はっとする小さな発見や表参道のスタイリッシュな雰囲気に全くそぐわない景色です。これらはごくありふれたものだけれど、見飽きた都会の空間の小さな隙間に現れるのです。

無名のアーティストによるライティング・インスタレーション、工事現場の赤く光るコーン、また、マンガの描かれた交番のサイン照明…。こういった体験が表参道をもっとユニークに新鮮にしているように思えます。

(Peggy Tan)



1. オーチャード通り (Singapore)
2. ガラスファサードを通して見られる各店舗の”レイヤー”
3. Max & Co. キューブ型のファサード
4. 工事現場の赤いコーン
5. 交番のサイン照明

第13回街歩き

2002年05月17日

日本科学未来館・お台場

今回の街歩きは、LPAが照明担当した日本科学未来館を皮切りに、最後はヴィーナスフォートまで、お台場をターゲットとして行われました。なぜか、雨の日が多いといわれる街歩き… 残念ながらこの日も生憎の雨となっていました。総勢16名もの参加者が集まり、決行されました。

■報告①

集合場所である日本未来科学館では、館内は閉館時間を過ぎていたため見られませんでした。面出団長から外観照明についての説明がありました。科学館のアトリウム外壁面のガラスリブ端部には、蛍をイメージしたLEDが光源として仕込まれています。このLEDは、その場の風力によって光源の輝度に変化して発光する仕組みになっており、静物である建築に見飽きない表情の変化をもたらすようになっていました。

その後ゆりかもめに乗って国際展示場前のシンボルプロムナードへ。ここではキーワードとして「低色温度・低照度・低位置」があげられ、低い所の光を上手く使おうとした試み、都市軸を意識した軸線照明の実践を垣間見ることができました。また歩行者

■報告②

行ってきました！照明探偵。

今回の街歩きは、昨年OPENした日本科学未来館を中心に、お台場を調査してきました。私は、日本科学未来館の”科学未来”という言葉に魅せられ、早めに行って館内まで楽しもうと思いをいそいそと運びました。

でも、天気は、やっぱり(?)の大雨。

日本科学未来館はドカーンとありました。中に入ってみると、ガラーンとしてました。…こんなにお金がかかってそうなのに、もったいない…閉館真近だったからでしょうか。館内は、最新のモノがたくさんあって、とても興味深かったです。眠れるようなスペース(?)もあったので、お台場の息抜き所としても最適ではないでしょうか。

入口から入ってすぐに印象的な10mの光ファイバーがありました。そして、閉館してから、団員が揃い外に出て街歩きがス

者を意識して、シンボルプロムナード交差点では床埋め込みの光ファイバーやLEDが、人を飽きさせないように15分間隔でオペレーションされているという話が聞かれました。この15分間というのはラスベガスのショーでも使われているように、歩行者を惹きつけていられるギリギリな時間単位のようなのです。ときには15分といわずもっと心と時間の余裕をもって、立ち止まってのんびり過ごしてみたいものですね。

最後には懇親会場のあるヴィーナスフォートを目指しつつ、降りしきる雨の中を夢の大橋を見ていきました。大橋を渡る直前には、残念ながら点灯していませんでしたが、建築家の渡辺誠さんが1997年に北米照明学会賞を受賞した「FIBER WAVE」がありました。これは幅150mm、高さ4.5mのしなるファイバーポールの先端に、太陽電池とLEDが付属し、それが風にそよぎ太陽エネルギーによって発光するという非常に繊細で美しいエコロジーなアートです。ただ、ちょっと残念だったのはその足元。通行人がむやみにアートを傷つけないための安全照明なのでしょうが、メタルハライドランプが丸見えで、作品をパーンと照射し

タートしました。傘をさしながら、日本科学未来館のまわりをみて、向かいにある東京国際交流館を見学。東京国際交流館の周辺は、内から生活の光そのものが外に溢れ、外灯いらずで、とても印象的な空間でした。お台場にはガラスの建築が多く、夜にはまるでその建築自身が発光して、周りの環境に対して、照明器具の役割をしていたように感じました。そのためか、周辺は明るくなり、外灯が所々消灯していました。

東京国際交流館を見学のあと、探偵団一行はゆりかもめに乗り込みました。ゆりかもめの窓からお台場を眺めると、いつもの東京の街並よりワンランク上の街並が垣間みれました。ゆりかもめからは、実際に地を歩いている時より、全体が見渡すことができました。公園に設置されている、低位置、低照度、低温度、低照度ですが、演色性の高いランプがこの街並にとっても貢献しているように感じました。そして、臨海副都心シンボルプロムナードを歩きました。とても興



1. 集合写真 (ヴィーナスフォート) 3. 夢の大橋
2. 日本科学未来館

ていました。これではせっかくの繊細なアートが、丸潰れになってしまいそうな感じでした。「おしやれば足元から」とはよく言われることですが、いい作品だからこそ、最後まで気を使ってほしいと思いました。

煌々とライトアップされている夢の大橋は、シンボルプロムナード以上に明るく、お祭りを彷彿させるようなポール灯の足元では6ルクス、橋の中央付近でも28ルクスの明るさがありました。

懇親会では学生も多く、将来の話に花を咲かせ盛り上がりつつありました。

(井元 純子)

味深い40mの光ファイバー。しかし、周りにはあるビルのオフィスの蛍光灯むき出しのあかりとコンビニのあかりが悲惨に明るくて、せっかくの光ファイバーが少し力ない感じが、残念で悔しかったです。全体を通しての街づくりの難しさを感じる反面、こうした街歩きで現場にたつことでの発見が面白くもありました。それから、ビーナスフォートへ向かう際に通った橋。すずらんのような外灯がデコレイトされていてお祭りのようでした。そのすずらんのような外灯がなくても十分な光があったように感じたのと、人の利用が見られない点に、エネルギーの無駄な浪費を悔やみました。

そんなこんなでビーナスフォートでの飲み放題、食べ放題の懇親会です。今回は、先生の大学のゼミ生が参加していて就職活動話など、貴重な話を聞くこともできました。ありがとうございました。

やっぱり街歩きでなきゃ！！です。

(上田夏子)

第18回研究会サロン 2002年06月11日

街歩き、フランクフルト・ベルリン調査、北京講演会報告 など

今年度最初のサロンはワールドカップに勝るとも劣らない熱気と盛り上がりで、約30名の団員の皆さんと一緒に行われました。遠くは名古屋から参加してくれた団員の方もいらっしゃいました。今回のサロンは先日行われた街歩き（日本科学未来館・お台場）の報告、フランクフルト・ベルリン調査報告、北京講演会報告などが行われました。

■フランクフルト・ベルリン調査報告

まず、田沼団員から4月にフランクフルトで行われたLight+Building（照明とビル設備の国際見本市）、ベルリンの街やカフェ調査などの報告が行われました。

Light+Buildingでは照明器具そのものの展示よりも、壁やパネルなどが面発光する展示ブースが目立っていたとのこと。面出団長によるとこのような展示は近年増えつつあるスタイルであるそうです。団長が建築照明の作法として挙げている「建築そのものを照明器具化せよ」という考え方が照明業界では主流になってきているということでしょうか。

ベルリンの調査報告では、主にポツダム広場周辺が紹介されました。ポツダム広場周辺は1989年のベルリンの壁崩壊後、統一ドイツの象徴としてダイムラーとソニーの資本を導入しての再開発が行われました。ベルリン市が1991年に実施した都市計画コンペでヒルマーとザトラーの案が一等となり、このプランを元に各ブロック毎にコンペを行い、ダイムラーシティはレンゾ・ピアノが、ソニーセンターはヘルムート・ヤーンが担当することになり、両者に隣接するA+Tプロジェクトはジョルジョ・グラッシに決まりました。ダイムラー・クライスラー本社ビルのアップライトされた新緑の美しい樹木のスライドは団員の皆さんにも好評でした。これには面出団長も納得の様子でした。

また、田沼団員からはドイツと日本（主に表参道周辺）のカフェの調査報告も行われました。本場ヨーロッパのカフェの方とは違い実際に足を運んでみるとかなり明るいところが多く、店内の照明も手の込んだ手法を用いている所は少なくペンダトラ

イトが主流のようです。近年日本ではカフェが急増していますが、日本でのカフェは流行やファッションの発信地であるのに対し、ヨーロッパのカフェは居酒屋のようなもっと生活密着した情報交流の場という位置付けができるのではないのでしょうか。だから店内が思ったより明るいのでしょうか。

■北京講演会報告

面出団長からは5月に建築家の原広司さんと中国（北京）で行なった講演会の報告が行われました。「21世紀的都市環境照明」と題して開催された講演会ですが、中国ではまだ照明デザインは新しい未知の分野ということで熱意あるたくさんの聴講者に団長は様々な質問を受けたそうです。

■街歩き報告

次に5月17日に開催された日本科学未来館・お台場の街歩き報告が行われたのですが、その日は生憎の雨で写真撮影も思うようにできず、写真の枚数は御容赦くださいということでも・・・。街歩きは雨の日が多らしく団員の中には実は雨男、雨女がいるのでは？という話まで出ましたが、今回の街歩きは晴れるといいですね。

■ヒカリモノ

恒例のヒカリモノのコーナーでは、渡邊団員からSaccade-based Displayなるものが紹介されました。サッカドと呼ばれる高速の眼球運動を利用してLEDを用いた2次元イメージを提示するディスプレイです。皆さんも御存知だと思いますが、左右に振ると工事中なんて文字が見えるLEDが埋め込まれた光る棒がありますよね。このSaccade-based Displayはそれとは逆の仕組みで光は固定のまま我々の眼球が動くと文字や記号が見えるというものです。じっと見ているとただの光る棒なのですが視線を動かした瞬間そこから文字や記号が飛び出て来るという実に不思議なモノでした。一見の価値アリですよ。他の団員の皆さんもかなり興味を持ったようで熱のこもった意見交換が行なわれていました。

他にも先ごろ発売されたばかりの新型携帯の紹介などもあり、ますます盛り上がりを見せるヒカリモノのコーナー。照明探偵団は団員一人一人が主役です。気になるもの、おもしろいもの、活動の報告など今後もどんどん紹介していただけることを期待しています。（岡本 賢）

1. ライトアップされた新緑の樹木（ベルリン）
2. 北京講演会のポスターを広げる団長
3. Saccade-based Display
4. 渡邊団員によるプレゼンテーション



LIVING DESIGN に 照明探偵団エッセイ連載開始！！

リビング・デザインセンターから発刊されている会員のための情報誌、“LIVING DESIGN”が7月号から隔月で発刊される全国紙になりました。

照明探偵団も今回ページをもらって、「あかりと生活 照明探偵団ノートより」というタイトルでエッセイの連載を開始！

第一回目は「あなたも照明探偵団！」ということで、照明探偵団とは何ぞや？ということを紹介しています。第二回目からは探偵団の調査報告をメインに、あかりと生活というテーマにフォーカスしたエッセイを写真を交えて紹介していくので、是非ともチェックして下さいね。



↑この表紙が目印です

★★★★投稿規定★★★★

照明探偵団通信 vol.14（次号）の原稿を募集しています。独自の照明探偵レポート、光に思う今日の日本、照明について知りたいこと、疑問に思っていることなどなど、テーマは何でも結構です。日頃ひかり、あかりなどについて思っていることや様々なレポートを照明探偵団通信に発表してみませんか。原稿の送付方法は、

●原稿をテキスト形式で保存したフロッピーを送付

●e-mailで送付

（メール上記述でも原稿テキストファイル添付でもOK）

●FAXで送付 ●郵送で送付

のいずれかをお願いいたします。また、このほかの送付方法をお考えの方は、事務局までご相談ください。投稿お待ちしております！

照明探偵団・事務局

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前5-28-10 ライティングプランナーズアソシエーツ内

TEL: 03-5469-1022 FAX: 03-5469-1023

e-mail=tanteidan@lighting.co.jp <http://www.lighting.co.jp/tanteidan/>

【照明探偵団の活動は以下の24社にご協賛いただいております。】

ルートロンアスカ株式会社 岩崎電気株式会社 松下電工株式会社 東芝ライテック株式会社 小糸工業株式会社 三菱レイヨン株式会社 ヤマギワ株式会社 株式会社ウシオスペース 山田照明株式会社 マックスレイ株式会社 オーデリック株式会社 ニッポ電機株式会社 株式会社エルコ・トートー 株式会社ウシオユーテック 日本フィリップス株式会社 小泉産業株式会社 株式会社遠藤照明 三菱電機照明株式会社 大光電機株式会社 湘南工作販売株式会社 金門電気株式会社 ヨシモトポール株式会社 日本電池株式会社 トキ・コーポレーション株式会社

照明探偵団日記

2002 FIFA ワールドカップが日本中を駆け抜けた1ヵ月間。

日頃サッカーに全く興味を示さない人たちも、この日韓同時開催と言う興奮の渦の中では何とはなしに落ち着かない時間を過ごしたのでは無いでしょうか？半年程前に横浜駅西口の風の塔の近辺で正五角形と正六角形を組み合わせたサッカーボールを豆球で象ったオーナメントを見た時は、「何も今からそんなに騒がなくても・・・」と思っていましたが、横浜で決勝戦だったんですね。電飾ボールも登場するわけですね。

ところでそのサッカーボール。今大会の公式試合球”フィーバーノバ”もそうだったように、32面体という形状は同じでも模様は白黒だけではありません。もともとは茶色でしたが、ボールの回転がわかりやすく、テレビ放映でも映えるようにとの狙いもあって、1970年メキシコ大会前に登場したのが白黒模様だったそう。その進化は目覚ましいものがあります。近い将来、グリーンにキラリと光る電飾ボールが登場する日がやってくるかも。

（田沼彩子）